

山口県庁本館棟

YAMAGUCHI PREFECTURAL OFFICES

所在地——— 山口市滝町 1 - 1

建築主——— 山口県

設計者——— 山口県庁舎建設事務局

株式会社日建設計

施工者——— 株式会社大林組

鹿島建設株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社間組

株式会社鴻池組

竣工——— 1984年 5 月31日

location——— Yamaguchi City

owner——— Yamaguchi Prefecture

architects——— Yamaguchi Prefecture

Nikken Sekkei, planners, architects and engineers

contractors——— Ohbayashi Corporation

Kajima Corporation

Takenaka Komuten Co., Ltd.

Hazama-Gumi, Ltd.

Konoike Construction Co., Ltd.

completion date—— May, 1984





全景 General view.



エントランスホール Entrance hall.

建築概要

敷地面積 124,850㎡

建築面積 10,282.97㎡ (本館棟・厚生棟)

延床面積 72,000㎡ (// //)

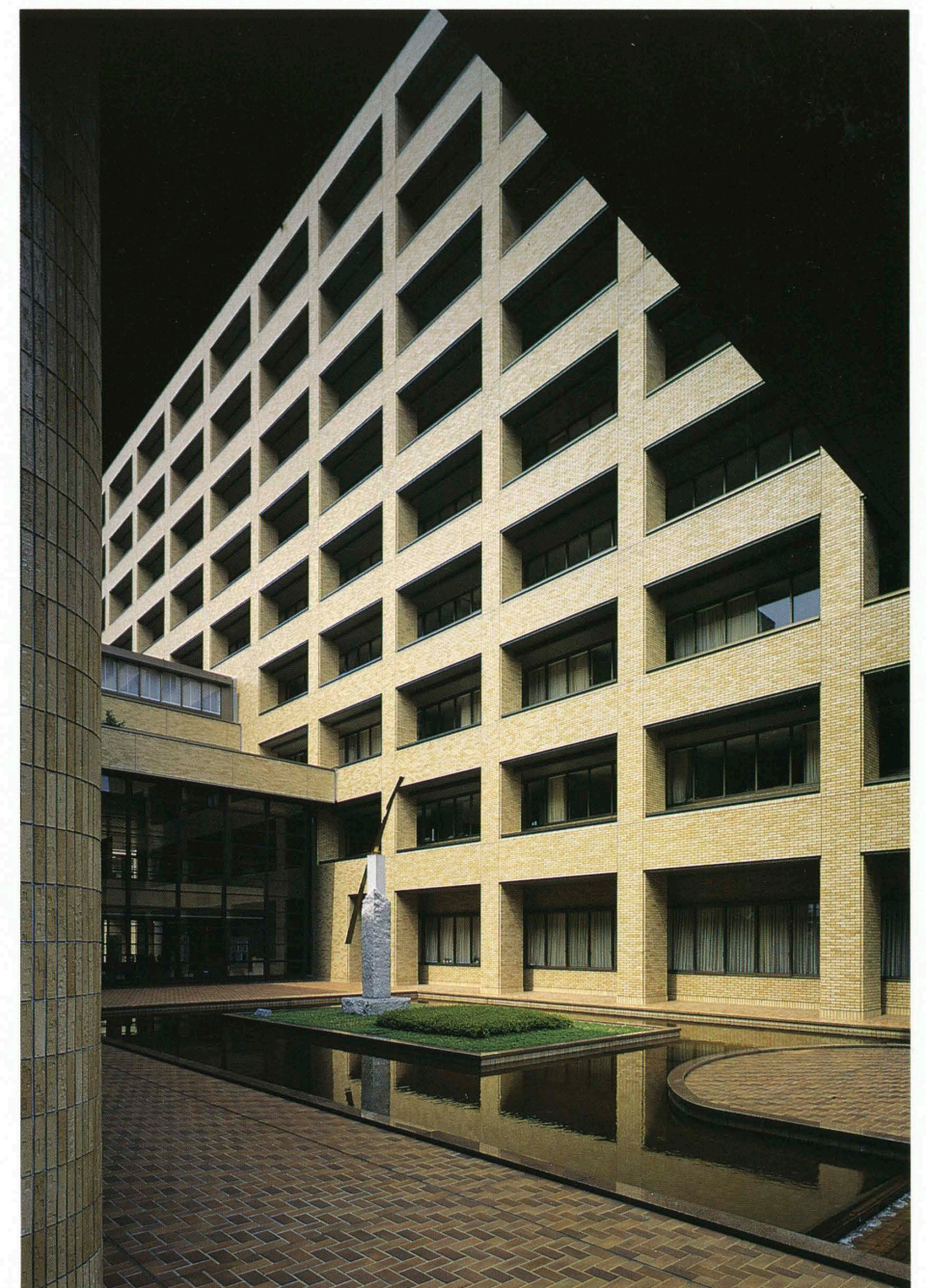
構造=鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄筋コンクリート造

規模=本館棟(1号)/地下1階 地上15階 本館棟(2号)/地下1階 地上4階 厚生棟:地上4階

仕上げ概要

外部仕上げ 屋根:アスファルト防水 押えコンクリート仕上げ 一部磁器タイル貼り 耐候性鋼板葺き 外壁:クラフトテッセラタイル貼り クラフトテッセラボーダータイル貼り 建具:アルミニウム製(電解着色)・鉄製 一部ステンレス製・ブロンズ製

内部仕上げ エントランスホール・県民ホール 床:花崗岩ジェットバーナー仕上げ ボーダー本磨き 一部ループカーペット 壁:大理石



中庭 Courtyard.

(トラバーチン) 天井:不燃化粧板 知事・副知事室 床:じゅうたん 壁:突板練付けベニヤ 天井:くり型天井クロスベンキ 本館会議室 床:ウルトンカーペット 壁:布クロス 天井:くり型天井クロスベンキ 一般事務室 床:ビニールタイル 壁:パーティションモルタル EP-II 天井:岩綿吸音板㊦9 食堂 ビニールシート 壁:ビニールクロス 天井:ビニールクロス

設備概要

電気 受変電:特別高圧22,000V,4,000KW 契約 発電機:1,000KVA ガスタービンエンジン2台 自動起動

空調 熱源:ガス焚き冷温発生機3台 空冷ヒートポンプチラー パッケージ型空調器 方式:単一ダクト方式 ファンコイルユニット方式

衛生 給水:受水槽 高置水槽 給湯:中央給湯方式 貯湯式電気温水器 排水:汚水 雑排

水分流方式

消火 屋内消火栓 スプリンクラー ハロンガス 泡消火 連結送水口



県民ホール Hall.



会議室 Conference room.

選評 近江 栄 大高正人 吉川圭二

ひと昔まえ、議会棟の審査をする機会があったが、その後10年近い歳月が流れ、かなり長期計画である。しかし議会棟とこの庁舎は、一つの計画のようにデザインがまとまり歳月を思わせない出来ばえである。

議会棟は、これからの全体の出来ばえを見てからという理由で、賞を見送ったが、美しい自然の環境を生かし、歴史的な建築や構造物を生かして完成する計画はかなり困難なように思われた。特に旧県庁舎が敷地の中央にあり、歴史的なたずまいの山林が裏に迫って、旧県庁舎を残して計画することは至難の状況であった。

旧県庁舎は、明治の元勳を多く輩出した山口県にふさわしい建築で、妻木頼黄の指導により武田五一が設計して大正5年に完成した指折りの庁舎建築で、県の内外からその保存利用を要望されていた。

県はその再利用を決定し、新庁舎の前の広場の一方にうま

く収めた新旧の対比は、歴史の厚みを見せる見事な計画になった。県庁の前の広場は、裏の山から水を流し、芸大教授で地元出身の彫刻家・澄川喜一が池川の指導をしてその彫刻を配し、県民の公園風にしつらえている。事務的な機能にかたより、冷たい権威的空間になることの多い県庁舎の環境を、歴史的な公園のように企画した県、計画した設計者のヒューマンな心情に敬服した次第である。

建築も同じように行き届いた温かな内部空間を主題に計画されており、窓からの美しい山や空とあいまって住む空間の感じすらした。新しい事務所建築の傾向を先取りした、優れた県の企画と設計者の腕を高く評価したのである。

施工に当たった共同企業体も、細心精緻な施工によって錦上花をそえ、風格のある出来ばえである。

企画・設計・施工三者が、高い水準で一貫した山口県庁舎は、最もBCS賞にふさわしい第一級の建築として評価した。

REVIEW

Sakae Omi, Masato Otaka and Keiji Yoshikawa

Although nearly a decade separates them, this office block and the earlier conference hall, are a skillfully executed unity. A number of factors aggravated the difficulty of carrying out this design. First, was the need to fit the buildings into a beautiful natural environment. Second was the presence in the center of the complex of the old prefectural office building, which has been preserved as historically significant. Completed in 1916, the old building is worthy of Yamaguchi Prefecture, the home of many senior statesmen of the late nineteenth and early twentieth centuries. And its preservation was widely recommended by people from both within and without the prefecture.

Resolving to make continued use of the old building, the prefectural authorities produced a plan in which the old and the new are splendidly contrasted: the old office building now stands in one part of a plaza in front of the new one. Sculpture by an artist native to

Yamaguchi Prefecture is used in conjunction with water drawn from the mountains in the background to make this plaza a kind of civic park saving the complex from the chilly official quality of many facilities of the kind. The human emotional understanding demonstrated by both the prefecture and the planners in developing this history park deserves great respect.

The interiors too reflect the same meticulous care and warmth in planning. Both client and designers are to be praised for the way they have set new standards for office architecture by such things as creating dwelling spaces with windows commanding beautiful views of mountains and sky. The beauty and dignity of the building are further enhanced by the careful excellence of the construction work carried out by a group of firms. Cooperation among client, designers, and contractors was of the utmost importance in the creation of these excellent prefectural offices.

